

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

地域へ開く自然観察会

志木高等学校では、2007年から毎年5月と9月の年2回、主に周辺地域の住民を対象に**自然観察会**を行っています。今年5月に

第16回を数え、7年半で約920名の参加を得ました。これまでのアンケートでは半数以上の参加者が志木、朝霞、新座在住の方であり、リピーターも2割以上いることから、地域行事として定着しつつある観があります。

そもそもこの自然観察会は、本校の敷地にひろがる広大な自然環境を地域に還元し、地元との連携交流に生かせないかと模索して生まれたものです。首都圏にある市立の自然科学系博物館が主催する観察会が、市の広報誌で公募して20名前後の規模で開催されているというマーケティングデータに基づき、志木市の広報誌に開催案内を掲載しました。同時に、本校正門の外部向け掲示板ならびにウェブサイトに開催予告をしています。現在では、生徒の保護者や卒業生、口コミでこの催しを知った

方々も参加する、本校独自の行事となりつつあります。

この会は、10万平米を超える敷地の中に生育する600種超の植物、20種超の鳥類に親しみながら、多摩川が作った武蔵野台地という巨大な扇状地の末端（崖線）と、野火^{のびどめ}止用水という史跡を、2時間かけて歩いて見学するものです。生物を担当する専任教諭を中心に、教職員が参加者を案内します。また、生物の授業を選択している3年生の有志約20名からなるインストラクターが、植物の説明を担当しています。春の会では「未知の植物を自分の力で調べるには？」という講座を毎回行っています。秋の会では「ドングリを分類してみよう」という講座を開いて子どもたちにも好評です。

この催しは、志木高という場所、生徒、卒業生、教職員、いづれが欠けても実現しえないものです。地域に開かれた学校を目指して、今年も観察会は多くの参加をお待ちしています。



◎志木高等学校 教諭

みやはしひろし
宮橋裕司